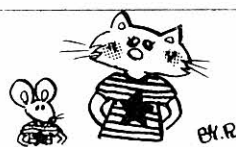


昭和四十六年三月十一日第三種郵便認可（毎月三回一の日発行）  
昭和五十年三月一日発行 SSKA 通巻第一三九号

SSKA

膠原

No.21



関西支部発行の文集

闘たたか

第一号が出来上りました

ふか緑の中に、踏まれて強く芽吹き育つ麦をあしらった素晴らしい表紙の装丁…内容を簡単にご紹介いたしますと、第一部斗病記録には 私達だけにしか書けない生きたカルテです。どんなにひどく打ちのめされても強く「生きる」その生き方の記録です…とあり そして病魔を背負って生きてゆく事は苦しいが、と云って病魔に負けてはいけません、現在の私がこんなにも倅せになれたからなのです。それは私が妻になり母にもなれこんなにも倅せだからなのです。といったSLEの永井さんの嬉こびの声、「病院のベッドの上で病氣と斗い恋に悩やんでいた頃の永井さんが、苦しい心の葛藤の中から生みだした、健康な人には知る事の出来ない、尊く美しい愛の記録です」  
又 死ぬ迄苦しむ病いと診断され、その生命が早くて五年、長

くて十五年と宣告され、更に不治の進行性疾患と指摘されて五年目のある患者さんの声、最初に云われた十五年の命なら、今十二年め、残こされた三年を、どんな悪条件の中でも我慢して、痛みにたえつつ職を求めて社会の中に入って行くたくましさ…

又親しい療友の死に幾度かショックを受け、悲しみに打ちのめされ乍ら、其の中から多くを学び二級障害者となった今、機能快復を目ざして自分の病氣を正しくみつめている強皮症の永浜さん、同じ強皮症を背負って斗病から従病精神にきりかえ次々にうばわれゆく機能麻痺の中、蝸の歩みであってもいい、少こしづつ、やって行かねば残酷に時は流れて行く…と病氣に従いながらマイペースに生きる明るい坂口さんの従病記録等、B5版36頁の一つ／＼胸打つ感動の文集です。

皆様も、この文集をお読みになったらきっと希望と勇気が出ると思います。

苦しいからこそ、強く生き抜く精神力が産れるのです。  
友の会の皆さん、苦しい時は苦しいと叫び乍らも、この人達の様に素晴らしい自分なりの生甲斐と、生活を見出し出そうではありませんか。

なお文集「闘」をお読みにになりたい方は、左記へお申し込み下さいませ。送料共一部二五〇円です。

申し込み先

関西支部長宅

住所

〒558 大阪市住吉区大領町二ノ四三

沢田安夫様

TEL

〇三―六九三―五〇四五

申し込み方法

一、先払いの方は送料共切手二五〇円を同封して文集 闘 を

購読したい旨申し込んで下さい。

二、後払の方は文集を購読したいからとハガキで申し込まれま

すと、文集と一諸に振替用紙が同封されますので後日郵便局

にて二五〇円納付して下さいませ。

## 文集「闘」をいただき

毎日のお天気と寒暖計と、にらめっこしながら、この寒い季節を悶々と暮しております様な状態の中で、先日はお手紙と文集をお送り下さいまして、大変有難とうございました。関西支部のあまりにも立派な文集が出来ましたことに、大変感心いたしました。さっそく拝読させていただきました。充実した内容と、読みやすい編集、又身近な問題を取り上げている点等、支部におきまして、これだけのものをお造りなるのには、大変な努力と御苦労が、おありになりましたこと々お察し致します。皆様、一人／＼の力が実を結び、素晴らしい文集が出来ましたことは、私達にも、じかに

その暖かさが伝わって来る様です。今後の支部発展と共に、次号も増々皆様に親しまれる機関誌になります様お祈りしたいと思います。

さて最後に現在の私事など書かせていただきます。四十三年の五月の発病以来七年目、専門病院にたどりつき、膠原病の中の「進行性の強皮症」と診断がついて退院したのは何回かの入院と、幾つかの病名をもらい病院ジブシーをつづけたあとの最後、七ヶ月におよぶ入院の後、四十八年十月でした。さっそく友の会に入り、いろ／＼な知識も増し、日常生活の上にも、ずい分と気をつける様になりました。四度目の入院より通院は神奈川県立相模原病院のリウマチ科に行つて居ります。この病院には「リウマチ日記」と云うのがありまして、それを毎日記録し通院日に先生にお見せする様になって居ります。私もそれを利用していただき付けております。家より片道二時間かゝりますので具合の悪い時には大変ですが出来るだけ余裕を持つ様にして、悪くなりそうな時には、早めに行つて、予約外でも見ていただく様にしております。総会の時の塩川先生のお話しにもありました様に、先生のお話しを参考にして私は私なりの生活方法で気をつける様にしております。私の場合、良い先生に、めぐりあえた事も一つの幸です。正しく病気を知った今は油断せず、やはり常に今以上に絶対的にくくしない様に努力することにとめて居ります。又何んの病気で、もうさうと思ひますが、自分で病気を直さうと

いう気持を持つ事が、大変大切なことではないかと思えます。苦しい事が多い中でも自分だけが一番不幸なのだと思わずに必ず良い時が来るといふ考えのもとに、自分自身に言い聞かせながら、一生懸命頑張ってまいります。

春の訪れを待ちながら、もつと／＼元気になるうと思っております。又、支部の集りを楽しみにして居ります………

二月五日

神奈川県南足柄市

井上 幸子 強皮症



井上さん、感想文とくわしい斗病録ありがとうございます。診療所から漢方医迄、良いと聞いた事は全てやってみて、それでも再発のくりかえし、やっと膠原病と云われても、それから又診断名がきまる迄の数年、いら／＼したり焦ったり心の葛藤は大変だったと思います。でも好きな旅行も出来る様になつた今、上手に病気と共に生きる姿、私達も見習せていたゞきます。同封下さいましたカラーのカット、残念ながら印刷の都合

上、色が出せず申し訳けございません。又、お気がむきましたなら墨で書いていたゞけませんでしょうか。ありがとうございます。

### 日本福祉映画協会設立のお知らせ

日本福祉映画協会とは、ベーチエット病友の会の方が中心となり、正しい難病等、社会病の啓発を目的とし、映画や、写真展を通じ全国的に、一般の人々を対照とした、患者の人々によって作られた団体です。又、会員は患者、健康者を問わず、映画の好きな仲間によって組織された、映画サークルとしての活動が、会の親睦となっています。

「主な事業としては、

1. ベーチエット病等、難病（社会病）の写真展の開催
2. 「難病ベーチエット病とたたかう」（仮題）等、映画の製作、上映運動
3. 難病患者（社会病患者）の福祉センターの設立と運営
4. 難病（社会病）等に関する各種出版物の発行
5. その他、右に付帯する一切の業務

代表幹事 吉沢美尚



となって居りますが特に、五〇年度の事業としては、写真展の開催と、「難病、ベーチエット病とたたかう」映画作りと、上映運動、膠原病等、難病全体の啓発写真作りを進めています。私連友の会も、この主旨に賛同し、協力をさせていたゞく事になりました。そこで今山の写真展よりベーチエット病と共に膠原病も、とりあげていたゞく事になりました。今年は先づ北海道より始まります。

北海道の皆様へ

社会福祉キャンペーン、日本福祉映画協会の写真展が左記日程にて開催されます。

これには、膠原病と、ベーチエット病が取り上げられています。体調の良い時、会場に行けば、同病の方とお逢し、話し合える場となるかもしれません。又、社会の偏見を無くす為にも、世間一般の人々から正しく理解してもらうためにも、御家族、友人等をおさそいになって、いらっしやってみて下さいませ。

日時と場所

三月 六日～ 十一日 札幌丸井今井デパート

三月十一日～ 十六日 旭川

三月十八日～二十三日 函館

予定



## 「医療相談コーナー」

総会時の返信用ハカキによる医療相談は、約一五〇名にたっしました。それを順天堂の橋本博史先生が十項目に大別して下さり、総会時に御出席下さいました諸先生方に、二項目づゝお答えをいたゞく様お願いいたして居ります。

お願いするのも気が引ける程御多忙な橋本先生、大別していたゞけました事、本当にありがとうございます。そして、同じ様に日夜、原因の究明の為、研究に、治療に精一ぱいご努力下さっている中で、更に友の会の為ご協力下さる諸先生方に深く感謝いたして居ります。今回より、御回答いたゞけましたものより掲載いたします。

問



SLEにおける腎生検のもつ意味について

答

慶応大学内科 東 條 毅

SLEという病気は悪くなると熱がでたり関節が痛んだり、顔や手に紅い発疹がでることが多く、また体がだるく疲れやすいこととがしばしばあります。注意ぶかい方はこのような時に病状が活動していることを自覚し、安静を強化して用心します。ところが

腎臓炎だけは特別で、病状が活動性であってもこの為に痛んだり熱がでたりはしません。これはSLEという病気だけの話ではなく、多くの腎臓炎についても言えることです。そこで腎臓の状態を常に注意して調べておく必要があります。

腎臓の状態をチェックする方法には尿の検査、血液成分の検査、腎機能検査などがあります。しかしこれらのチェック方法だけで腎臓の状態を正確につかむことは、時によって困難な場合があります。もし腎臓の組織の一部を直接に顕微鏡で調べることができれば、もっとも確実に腎臓炎の有無をたしかめられるわけです。このため細い針でごくわずかの腎組織を採取するための腎生検という方法が、広くとり入れられるようになったのです。

SLEの腎臓炎は、少なくとも三つの型に分類できるとされています。どの型に属する腎臓炎かによって、ステロイドホルモンの治療が異なってきます。どんな薬にも良い面と悪い面とがありますので、何によらず薬の量はできるだけ少なくしたいものです。しかし腎臓炎の病気の型によっては、ステロイドホルモンを必要を充分量投与することで、はじめて良い結果をうむ場合があります。そのため本来に必要な腎臓炎の病型に因って、必要な充分量を投与することになります。問題はこのような腎臓炎の病型を、尿検査などだけでは早期に完全に把握しにくいところにあります。

そこで、患者さんの同意がえられれば、積極的に腎生検を行って正しい治療方針を早期からたてるように努力すべきだという考え方が、次第に広まっております。

問

発病以来、病名がつきつきと変るとの疑問に対して、膠原病各種疾患の移行、重複について



答

慶応大学内科 東條 毅

膠原病という名で一括される病気には難しいものが多いと、医師同士でも良く言われます。これは病態を理解することが難しい、したがって診断を正しく下すことが難しい、という意味のようです。細菌性肺炎という病気、あるいは胃潰瘍という病気は、最近の医学水準では診断が難しい病気とは言えません。これに反して膠原病という名で一括されている病気は、その道の専門家ですら診断が困難なことが少なくないのです。これは病気の原因が良くわかっていないことによるわけです。しかし胃潰瘍の原因もはっきりして明らかではないのです。けれども胃の透視や胃カメラ、胃の粘膜の生検所見などのデータがそろえば、その診断はほぼ間違

いなく下されます。消化器病の専門家なら、診断はさらに確実でしょう。

SLE、皮膚筋炎、強皮症、多発性動脈炎などの病気では、このような診断の決め手となる検査所見というものが欠けています。しばしば誤解されていますが、一度LE細胞が陽性だからSLE、リウマチ反応が陽性だから慢性関節リウマチ、と考えるのは誤りです。また膠原病に含まれる病気では、お互に症状が良く似ています。関節や筋肉が痛む、力が入りにくい、熱がやすい、皮膚の変化がある、などという症状は、程度の差こそあれ広く共通しているのです。したがって正しい診断は、訴えをもつ方々の客観的な症状、種々の検査データ、筋生検や腎生検などの病理学的所見を正しく評価して、総合的に下されねばなりません。

さて問題は、このように正しく評価を下して膠原病の中の一つの病気であると診断しても、まれに、経過とともにもう一つの病気に移行したとしか考えられない症状を示す方がおられる事です。さらにまた、膠原病の中で二つの病気が同時に重複していると考えた方がよいような症状を示す方も、まれにはおられます。このような病気の状態は、あるいは複雑な膠原病の原因をさぐる手がかりを示しているのではないか、という観点からリウマチ学会でも真剣な討議が行なわれています。

## シェーグレン症候群について

埼玉医科大学 第二内科 鈴木輝彦

### 一、はじめに

シェーグレン症候群とは涙腺、唾液腺の慢性炎症によって引起される目、口などの乾燥症である。そしてこの乾燥症が単独に起る場合もあるが、多くの場合は他の膠原病を合併していることが多い。又、他の膠原病を合併していない場合でも関節痛や関節炎、レイノー症状、発熱、紅斑等の膠原病様の症状が見られることが非常に多い疾患である。

### 二、症状

最も典型的な症状としては繰返す耳下腺腫脹、関節炎を訴えて来院する場合がある。そして問診により結膜炎になりやすい既往があることが多い。この乾燥症の症状としては眼球結膜の異物感、焼けるような痛み、ひどくなると失明することがある。口内乾燥、すなわち唾液が出ないために虫歯が多発したり、食物が飲みこみにくくなる。さらには口腔粘膜潰瘍ができることもある。又、多くの場合関節炎が認められ、一部の症例は明らかかな慢

性関節リウマチを合併している。そして関節炎が合併している場合には患者が関節の痛みの方に向けられて、上述した乾燥症については訴えないことが多い。又ある患者では関節痛と顔面、手指の軽度の紅斑が出現するため全身性エリテマトーデスと誤診される場合がある。このような症例では全身性エリテマトーデスによる腎症が認められないのが特徴である。又ある症例ではレイノー症状を伴うこともあり、このような場合には強皮症と誤診されている場合がある。その他に紫斑、筋炎等がみられる場合もある。

以上はシェーグレン症候群が他の膠原病に似た症状を呈する場合であるが、実際に他の膠原病を合併する場合が多い。最も多いのが慢性関節リウマチであり、ついでエリテマトーデス、強皮症の順であり多発性筋炎は比較的少ない。また臨床免疫的検査では血沈高度促進、リウマチ反応、LE細胞、抗核抗体等が陽性、さらに白血球減少などの異常所見を示すことから他の膠原病と誤診されている場合が非常に多い。

### 三、診 断

耳下腺造影法によるレントゲン写真で、シェーグレン症候群に特徴的な所見により本症候群と診断するか、あるいは唾液腺生検によって診断を確かめることが必要である。目が痛いとか、口

が乾くとかいう訴えだけで診断されることはない。その他涙の工合を調べる方法としてシャーマーテスト、眼球結膜乾燥のテストとして染色法がある。

### 四、経 過

経過は長く、数年から数十年に渡り反復性の耳下腺腫脹を繰り返したり、関節痛、関節炎、紅斑などを伴うことが多い。また症例によって心筋炎、心胞炎、肺線維症などの重篤な症状を合併することもあり、寛解期にも必ず定期的な通院が必要である。

### 五 治 療

急性炎症の再燃が認められる時にはステロイド剤内服が必要であり、その内復期間は症例により異なるが数カ月から一年以上を有する。寛解期には非ステロイド系消炎剤が良い。

局所療法として、目には人工涙液（マイティア）を用いる。口腔乾燥に対してはあまり良い局所療法はなく、食時に際して水分を余分にとるよう心がける。

### 六、予 後

乾燥症の予後は思わしくない。したがって早期発見、早期治

療がもっとも大切である。一旦高度の乾燥症をおこした場合の予後は悪いが、これによる生命の危険は非常に少ない。ただし他の膠原病を合併していることが非常に多いので、一カ月に一、二回の定期的な通院が必要である。

日常生活の注意点としては、乾燥症のみの場合には一般生活をして一向さしつかえないが、幾分なりとも他の膠原病様の症状を有する場合には過労をさけることに心掛け、また本症のほとんどすべては女性であることから妊娠、出産等については主治医の指示を仰ぐ必要がある。

### 支部長さんより支部の皆様へ

北海道支部長 三 森 礼 子

皆さんご無沙汰いたして居ります。今年始めての挨拶なので、あけましておめでとうございますと、人並に申すべきなのでしょうが、とどまることを知らない物価高の中で、ようやく命をつなぎ、気がついたら、新しい年になっていたというのが、正直なところではないでしょうか？

健康な人でさえ、暮しくいのに、いくら公費負担になったとはいえ、暖房費や、タクシー代などが、必要以上にかゝる私達には、何ひとつ、おめでたい事などありそうもないのです。それでもこんな中で希望を捨てず、とか、笑顔を絶さずと云うのは、口で云うのは簡単ですが、実行するのは、至難のワザです。「希望」と

云うものは、あると思えば、あるものだし、ないと思えばないもの」の様です。こんなご時世で、あんまり期待はできないけれど、やはり、今年こそは、元気になるという希望を持って生きぬきましよう。聞きあきた、言い古るされた言葉ですが、それだけに、やはりこれは真実なのですから。

### 友の会の皆様

関西支部長 沢 田 安 夫

残寒きびしき折から皆様にはお身体の調子はいかがででしょうか。お伺い申し上げます。

友の会本部役員並びに各支部役員の皆様には、会のため大変お世話にあずかり誠に有難度うございます。我々会員のためこれまでに多大のご努力、ご心労があったことと思います。心から厚くお礼申し上げます。

このたび肥田陽子さんの、お身体の調子がおもわしくないようですので、肥田さんに代って支部長をお引受け致すことになりました。

肥田さんにはしばらくご療養を頂き一日も早く快復され、お元気でご活躍されますことをお祈り申し上げます。

現在支部会員数は近畿二府四県で80人ほどですが、厚生省47年度SLE患者の推定実数は近畿で888名と報告されていますが、支部会員はその一割にもみたない現状です。

そこで支部活動の一部として

一、膠原病の啓蒙を兼ねあらゆる機会を取らえて友の会の呼びかけを続けて行く。

二、会員相互の親睦及び交流を深めるため機関紙の二カ月毎発行の定例化並びに、充実した濃い内容にすること。

又医療、社会保障の具体的要求を実現するため、地方自治体へ強力に働きかけ、一日も早く原因の究明や治療法を確立して、より明るく生きる喜びと希望が持てる日が早く実現するように、積極的に活動を続けて行きたいと考えております。

どうか、友の会の発展のために、本年も皆様の旧にまさる、ご支援、ご協力、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、皆様にとっても、この一年が更に良いお年でありませう、ご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

昭和五十年一月五日

### 昭和五十年をむかえて

愛知県支部長 百田道子

新年のご挨拶がおくれて申し訳なく思っております。いろいろと反省させられています。"人材不足"が先立ってか、支部の責任者の方法が悪いのか、事務局担当のいない県支部では支部長が兼任というのが現状。いずとも同じ悩みとは思いますが、去年一年を振り返りこのままの状態が進むと私個人の会になってしまわないかと思われ、今日この頃である。

会則通りにかぬのが病人の会なのかもしれぬが、支部の運営

の仕方が悪いから人が集まらぬと批難の声もある。

私ごとで恐縮だが、自宅静養にピリオドを打ち社会復帰して約一年。どうにかペースを取り戻したものの「友の会」の方がどうしてもおろそかになる。仕事オンリーでそちらまで手が届かないのを恐れて、去年の春、運営委員会をもった。支部長辞任宣言をしたのですが、「今までやってこれたのだから出来ぬ事はない……」という声が出ました。お互に立場の理解がなかったのだろうかといささかがっくりしたものです。というのも、発足当時から一年半というものの医療保護や生活保護を受けていたほど身体がダメになっていたし、又、一日中寝たきりの生活、何もする事がないし疲れればすぐ横になれる生活環境であったのではそれほど「会」の事務処理をしていた次第。家の中の生活であれば休憩しながら事務処理ぐらいは出来る。しかし、一歩外で働くようになるとそうはいかない。ましてや会社務めともなると給料をいたゞいて以上"会社"優先となる。いつ倒れて欠勤するかわからぬ私を使ってもらっているのだから"会"の事で徹夜をして寝込んだとあっては申し訳が立ぬ。結局「友の会」は二の次となってしまう。そして、兼任のまま月日が流れた。私のやり方がまずければ早くやめるべきで後任を捜がしてほしいと叫んだが、又、まわり持ちという事にしても、反応なし、事務局の移転の問題もあるが、それも未解決のまま、あれや、これやと板ばさみの中で、難病連合会におんぶされたまま去年の一年間は終った。振り

返って見るに愛知県支部の場合まだ 啓蒙は続けなければなら

ないようである。いつも力をかりるベイチェット病友の会支部長

の白鳥氏とも話す―情報の早さ確実さも大切だが情報過多のため、

ただ単に表面的な事で流されてしまいがち、一般市民がどれだけ

“難病”という言葉を知っている人がいるだろうか。街頭活動を

続けるたびに知らぬ人の方が多いのにオドロク！それが愛知県の

現状でもある。単に啓蒙だけでは意味がなくなるので一般市民へ

の呼びかけもさることながら患者自身の正しい認識と療養、そし

て、家族と医師への理解を深めなければならぬのではないかと考

えさせられる：東京支部の佐藤氏の“年頭雑感”（膠原 20）

に書かれてあるように“正しい認識と療養”をスローガンに社会

的視野を広くもち明るい心で生きてゆかねばと。 同感であ

るが、形だけの県支部をなんとかせねばと考えているが何か良い

方法はないだろうか？！相も交らず暗中摸索の県支部である。どな

たか後を経いでやっでは下さらぬものかと思案の毎日。

友の会は慈善事業であってはならぬはず。慈善でおこなっては、

誰ひとり救われないように思う。ひとり／＼が参加し協力し又、

社会的視野を広げる意味でも、各人が私たちが安心して暮してい

ける日常生活を営むことが出来るそんな都市や施設を私たちの手

で適応できるものにならなくては私たちは救われないように思う。

納税者としての意識を再確認し、誇りをもって生きていけるよう

なそんな環境作りを考えなければならぬと思う。私たちはあくま

でも一般市民の人々より病気をもっている為にこうした会の活動  
をしているに過ぎないという事を家族の人、身内の者から理解し  
てもらおう、ひとり／＼が働きかけようではありませんか。

## 支部報告

支部長 三森 礼子

北海道支部の会員の皆さん、新しい年を迎えていかがおすごし  
でしょうか？

二月十日に“いちばんぼし”2”をお届けする予定でしたが、今  
月は大変多忙なために“膠原”の一部をお借りして、発行にかえ  
させて頂くことになりました。どうか悪しからず御了承下さいませ。  
次回の例回のことですが、これまでの親睦を目的としたおしゃべ  
りの会にとどまらずもっと中味の濃いものをという意見もありま  
すので、これまでに出席された方の感想やこんなことをというア  
イデアなど支部の方へどんな おきかせ下さい。お待ちしてい  
ます。寄付お礼 会員ではありませんが数年前お嬢さんをS.I.E  
で亡くされてその後お手伝い下さっている手稲の林十三男さんか  
ら年末に一万円の寄付がありました。また病氣軽快となり退会に  
あたって本間幸枝さんのお母様から切手二千円相当、匿名の方か  
ら三千円頂きました。どうもありがとうございます。

### 新役員募集

役員の一入であった竹内雅子さんが亡くなられ、欠員となりま  
したのでもし役員をやって下さる方がありましたらこちらにお知

らせ下さいませ。会員本人より家族の方の協力が得られたらよいのですが。今の状態ではとても大変なのでどうか助けて下さい。

新入会員 札幌市北区屯田4条一丁目

小野 さゆり 小学三年 S L E

退会会員 小樽市住ノ江一の五の七

本間 幸枝 20才

## 埼玉支部報告

埼玉支部運営委員会

四十九年度の埼玉支部は役員のはとんどの者が病氣増悪となり入院生活を送る者が多い実状でした。皆で運動してやっと私たちの声が認められその一環として、支部活動助成予算も付いたにもかかわらず支部活動はストップしてしまいました。病院のベッドから運営委員にお願いし支部のことについて話合いましたが、何方も支部長代行できる状態ではなく上期はお休みせざるを得ませんでした。

今後の支部活動をどうするか、について一月中旬に事務局より電話で会員の現状を知る事を含めて調べ次の様な集会を持ちました。

### 新春埼玉支部の集い

一月二十四日 十一時～三時(森田宅)

この日は雪の後風の冷い日でしたが快晴で患者の身としてはど

うにか動ける日に恵まれ参加者は六名で診療日で参加できない方七名と参加予定だった方五名でした。

。支部活動をどうするかについて

皆の声の中にアンケート調査をしてみてもどうか、県行政とのパイプとしても支部は必要である、もっと交流の機会を持ってみては……等あり誰がやるのかについては、結局患者の手でしか方法もないまま何とか協力できる者で引っぱるのではなく、皆で押して行こうと云う事になりました。

。第二回支部総会開催予定

日時 三月十六日(日) 一時～五時

場所 埼玉会館(予定)

会の内容は会員相互の親睦を中心に専門の先生とケースワークに協力を依頼する。

### 支部活動報告

十一月十一日 埼玉障害難病協議会会議

五十年予算について(森田)

十一月十五日 副知事と面会(森田)

十二月 七日 埼玉障害難病協議会会議

会報三号編集と年末反省会(森田・田中)

一月十六日 埼玉障害難病協議会と共に五十年年度要望書提出、

知事及び各党議員団に説明する。(森田・田中)

一月十八日 支部だよりと難病患者医療費公費負担申請書用紙

と埼玉協議会報を配布する(森田・田中)

二月 一日 埼玉障害難病協議会会議(森田)

議会から提案「難病相談センター」の設置

各団体賛成で内容は各会事務局にたえず患者(会員外)から相談が入り入会を進めても入会せず結局我々が電話福祉相談員の役割をさせられる現状を考えて、一個人の犠牲的奉仕にも限界がありこのセンターの設置を提案したものです

### 埼玉県衛生部からお知らせ

二月一日の協議会会議において予防課から難病患者医療費公費負担の方法が四月より変わります。支払方式が医療機関により異なり患者さんも困って居りましたが、国民健康保険及び保険組合が代行する様になると思いますが、詳細はその時県広報でお知らせします。友の会の支部だよりも詳しくお知らせします。用紙も配布致します。

二月六日

森田



### 神奈川県支部よりお知らせ

事務局 倉田慶子

御無沙汰いたして居りますが、皆様いかゞおすごしていらっしゃいますか。きびしい寒さもあと一月、そこで桜の花も、ちらほら咲きそめる頃、皆様と一度お目にかゝり親睦を深めたいと思ひ左記の様な懇親会を開催いたします。皆様、体調を整えておいて是非御家族共々御参加下さいませようお待ちいたして居ります。

日時 三月三〇日 日曜日

場所 鶴見労働福祉会館(和室大広間)

時間 午前十一時より午後五時迄

以上ですがくわしくは追って御通知いたします。

### 愛知県支部報告 その(一)

百田

会員のみなさまお目出度うございます。

亀のように歩みののろい愛知県支部、旧正月になってやっと挨拶が出来るようになりました。その後如何お過ごしでしょうか。今年はいさぎの年びよん／＼はねて元気に過ごしたいものと思っています。

支部発足して足かけ四年になります。不況ムードの中でだんだん心細くなっています。本部のみなさまのお力添えのお蔭で解散せず今日にいたった次第です。また、前会長河西様には、ひとかたならぬ「会」へのお骨おりを戴きましたこと本当にありが

とうございしました。ここに心から感謝しますと共に、今は亡き御息女みどり様の御冥福をお祈り申しあげます。

### 愛知県支部四十九年度報告事項

- 運営委員会開く(三月三日)
- 役員改選の問題提議及会の運営方針案を当議。役員の件に関しては会員間の持ちまわりまたは推選によって決定となったが一向に進行せず現状維持となる。
- (新見国雄、福島照信、中島一恵、富永愛子、加藤静子、村上ふさ子、百田道子出席)
- 愛知県難病団体連合会(四月二十日)
- 市民大会の準備の打ち合せ出席(百田)
- 支部臨時集会(四月二十七日)
- 六月難病連合会主催による市民大会の打ち合せ及実行委員の決定及患者体験発表者一名選出の決定。(中島、長谷川(儀)、加藤、富永、百田)
- 愛知県難病連合会街頭活動及代表定例会(五月四日)
- 出席(佐藤・百田)
- 市民大会の通知原稿作成及津国立療養所(水員あや子)訪問。患者体験代表の原稿受取り。(五月二十五日)(百田)
- 臨時集会(五月二十六日)出席(富永・中島・加藤・兵藤・福島・百田)

- 市民大会の通知発送と電話連絡す。
- 愛知県難病団体連合会準備(五月二十九日)
- 出席(百田)カンバン関係担当。
- 愛知県難病連合会街頭活動及定例会出席(百田)
- 県民大会最終打ち合せ。東海テレビ取材の協力す。
- 愛知県難病連合会主催による"難病を考える県民大会"開催(六月九日(日)市公会堂四階ホールにて)
- 膠原病友の会出席者二十三名
- 愛知県難病団体連合会街頭活動及定例会(八月三日)
- 出席(百田)
- 名古屋国立病院内に膠原病センター窓口設置(カルテの一本化が計れる)
- 国立病院皮膚科部長佐々田健四郎先生、内科広田先生方の運動によって総合検査の統一がなされることとなる。
- 運営委員会合(十一月九日)出席(富永・百田)
- 支部総会の打ち合せ。原稿作成及コピー作業を支部で行い発送は後援会へ依頼す
- 第三回愛知県支部総会(十二月八日)
- 愛知県難病連合会街頭活動及定例会(六月一日)出席(百田)
- 県民大会最終打ち合せ。東海テレビ取材協力。
- 愛知県難病連合会主催による"難病を考える県民大会"開催(六月九日・市公会堂四階ホールにて)
- 膠原病友の会会員及関係参加者は次の通り

石川幸子、大村敏雄、柴谷七美男、長谷川義男、江頭典子、  
鈴木かつ子、神谷きみ子、水貝あや子、山本広雄、中島一恵、  
稲垣かずゑ、加藤静子、平手由美、永島律、鋤柄たづ子、  
西憲一、加藤美恵子、横山清一、川瀬賢作、川北耕一、  
富永愛子、前田正子、井藤スエ、牧野すす子、三芳綾子、  
長谷川義男、六鹿すす子、福島照信、天野鎮雄、谷幹一、  
新見国雄、百田道子 以上 (順不同)

。愛知県難病団体連合会街頭活動及定例会(八月三日)

出席(百田)

。松本道子バレエ団による"難病患者のためのチャリティーショ

ー"開催(八月十日)

。ベーチェット病を守る会ボランティア及支部長白鳥弘、新見国  
雄、大島天子、福島照信、百田参加

。支部運営委員会合(十一月十五日)(富永、百田)

。支部総会の決定及原稿及コピー作業の担当発送は後援会へ依頼  
す

。第三回愛知県支部総会(十二月八日)岡崎町名大病院二階会議  
室にて開催。

昭和四十九年度の活動報告及会計報告にひきつづき名古屋国立  
病院皮膚科部長佐々田健四郎先生による"膠原病センター"の  
お話し、愛知県難病団体連合会世話人大島元子先生のご挨拶後、  
膠原病センター依頼のアンケートを中心に医療相談を佐々田先

生に行っていたとき、それぞれに適切なアドバイスを受けまし  
た。

。来賓者 名古屋国立病院佐々田先生、名大病院ケースワーカー  
大島元子先生、水野隆正先生(工岐阜医師)、リュウマチ友の  
会久世様、ベーチェット病友の会鈴木様応援。

☆佐々田健四郎先生のお話しより。

膠原病センターといってもまだその部門が出来た訳ではなく、  
その準備の一段階として膠原病のカルテの一本化を計ったに過ぎ  
ないのですがいざ血液センターが設立されるのでその折りには  
膠原病独自の病棟の確立を考えているが、現在は"膠原病患者連  
絡票"という用紙があり疑いのある者はまずそれにチェックされ  
検査が行われ"膠原病患者登録用紙"に登録され各専門科でカル  
テを作り直すこともなく一枚のカルテでデータの集積を行い治  
療方法の一定化を計り各人の医者が一人の患者をいろんな側面か  
ら診断する。従来のような患者のわずらわしさを少しでもはぶく  
ことが出来時間の短縮化が計れた事を喜んでおり総合診断をする  
為、膠原病でない患者も発見されている。他の難病の患者も診察  
する事もしていますがデータが早く出るので早期発見に役立っ  
ている。

現在はカルテの一本化で診察をすすめているがまだまだ不十分  
なので早く便利にしたいと考えている。又、通院する人が多いの  
でその患者たちの便宜を計ろう意味で集中診療をも考えているが

人手が不足しているので思うにまかせないのが現状ですが私たちは出来る限りの事は行っていきたいと思っています。

患者はSLE（全身性エリテマトーデス）がやはり多く外来患者のほとんどがそうであり約七〇名はいる。

患者さん方へのお願いは、開業医に診察を受けていらっしゃる方は紹介状（病気の経過報告）をつけていたゞきたい、大きな検査は膠原病センターで受け普段は開業院の先生に見ていたゞく事が良いと思います。なるべく近くの先生にかかる事が大切だと思います。（佐々田先生のお話の一部をまとめさせて頂いたゞきました。）

膠原病センターの記入登録用紙等を御紹介いたしますと、下記のようなものが（縮図）あります。こういったものが全国統一的に名実ともに充実したならば、私達も少しは心がほぐれるかもしれませんね……………

膠原病患者連絡票

膠原病センター 御中 年 月 日  
 患者氏名 \_\_\_\_\_ 外来院 \_\_\_\_\_  
 診断 (又は疑い) カルテ(番付) 入院院 ( ) 病種( )  
 膠原病 (又は疑い)  RF (又は疑い)  
 SLE (又は疑い)  PSS (又は疑い)  
 Behcet (又は疑い)  その他の膠原病 (又は疑い)  
 PN (又は疑い)  
 DM, PM (又は疑い)  
 主治医 \_\_\_\_\_ 科 \_\_\_\_\_

膠原病患者登録用紙

登録番号 No. \_\_\_\_\_  
 カルテ番号 { 外来 年 No. \_\_\_\_\_  
                   { 入院 年 No. \_\_\_\_\_  
 登録年月日 年 月 日  
 性別 男 女  
 氏名 \_\_\_\_\_ 生年月日 明治 昭和 \_\_\_\_\_ 年 月 日  
 現住所 \_\_\_\_\_  
 本入職業 \_\_\_\_\_ 家庭職業 \_\_\_\_\_  
 学歴 小学校・中学校・高等学校・短大学 卒業  
 病名 (又は疑い) \_\_\_\_\_  
 診断根拠 1. 臨床的 2. 組織診 3. 血液学的 4. 総合診  
 治療開始年月日 年 月 日  
 主治医 \_\_\_\_\_  
 ※ 本症例に関する討議 有・無



患者氏名

眞

年 月 日 (年) 月 日 月 日 月 日 月 日 月 日 月 日

今年

表

|                  |      |                  |      |
|------------------|------|------------------|------|
| 検査項目             | 検査結果 | 検査項目             | 検査結果 |
| 赤血球数 (万)         |      | 赤血球数 (万)         |      |
| Hb g/dl          |      | Hb g/dl          |      |
| 網赤血球 %           |      | 網赤血球 %           |      |
| 白血球数             |      | 白血球数             |      |
| 好中球 %            |      | 好中球 %            |      |
| リンパ球 %           |      | リンパ球 %           |      |
| 好酸球 %            |      | 好酸球 %            |      |
| 血小板数 (万)         |      | 血小板数 (万)         |      |
| LE 総数            |      | LE 総数            |      |
| C R P            |      | C R P            |      |
| A S L O          |      | A S L O          |      |
| R A              |      | R A              |      |
| 免疫抗体             |      | 免疫抗体             |      |
| T A - test       |      | T A - test       |      |
| クームス反応           |      | クームス反応           |      |
| ワグネル反応           |      | ワグネル反応           |      |
| 清蛋白              |      | 清蛋白              |      |
| 学 D N C B        |      | 学 D N C B        |      |
| Ig G             |      | Ig G             |      |
| Ig M             |      | Ig M             |      |
| β <sub>1</sub> C |      | β <sub>1</sub> C |      |
| β <sub>2</sub> E |      | β <sub>2</sub> E |      |
| Au 抗原            |      | Au 抗原            |      |
| 総蛋白              |      | 総蛋白              |      |
| 7-glob           |      | 7-glob           |      |
| G O T            |      | G O T            |      |
| G P T            |      | G P T            |      |
| L D H            |      | L D H            |      |
| C P K            |      | C P K            |      |
| フィブリノーゲン         |      | フィブリノーゲン         |      |
| 尿蛋白              |      | 尿蛋白              |      |
| 尿糖               |      | 尿糖               |      |
| 尿潜血              |      | 尿潜血              |      |
| 尿比重              |      | 尿比重              |      |
| 尿 pH             |      | 尿 pH             |      |
| その他              |      | その他              |      |

膠原病治療経過記入用紙 (SLE Behcet PSS PNF DM PM RF その他) (基準) (10歳以上で記入)

患者氏名

男 女

今年

表

|                  |      |                  |      |
|------------------|------|------------------|------|
| 検査項目             | 検査結果 | 検査項目             | 検査結果 |
| 赤血球数 (万)         |      | 赤血球数 (万)         |      |
| Hb g/dl          |      | Hb g/dl          |      |
| 網赤血球 %           |      | 網赤血球 %           |      |
| 白血球数             |      | 白血球数             |      |
| 好中球 %            |      | 好中球 %            |      |
| リンパ球 %           |      | リンパ球 %           |      |
| 好酸球 %            |      | 好酸球 %            |      |
| 血小板数 (万)         |      | 血小板数 (万)         |      |
| LE 総数            |      | LE 総数            |      |
| C R P            |      | C R P            |      |
| A S L O          |      | A S L O          |      |
| R A              |      | R A              |      |
| 免疫抗体             |      | 免疫抗体             |      |
| T A - test       |      | T A - test       |      |
| クームス反応           |      | クームス反応           |      |
| ワグネル反応           |      | ワグネル反応           |      |
| 清蛋白              |      | 清蛋白              |      |
| 学 D N C B        |      | 学 D N C B        |      |
| Ig G             |      | Ig G             |      |
| Ig M             |      | Ig M             |      |
| β <sub>1</sub> C |      | β <sub>1</sub> C |      |
| β <sub>2</sub> E |      | β <sub>2</sub> E |      |
| Au 抗原            |      | Au 抗原            |      |
| 総蛋白              |      | 総蛋白              |      |
| 7-glob           |      | 7-glob           |      |
| G O T            |      | G O T            |      |
| G P T            |      | G P T            |      |
| L D H            |      | L D H            |      |
| C P K            |      | C P K            |      |
| フィブリノーゲン         |      | フィブリノーゲン         |      |
| 尿蛋白              |      | 尿蛋白              |      |
| 尿糖               |      | 尿糖               |      |
| 尿潜血              |      | 尿潜血              |      |
| 尿比重              |      | 尿比重              |      |
| 尿 pH             |      | 尿 pH             |      |
| その他              |      | その他              |      |

☆愛知県難病団体連合会世話人・大島元子先生のご挨拶より、

会員のみなさま、病身の中をごくろうさまです。今日ここに集まられたみなさんは、病氣と真剣にとっ組んでいる方々だと心強く思っております。経済的にも体力的にも限度がありますがその中でどのようにするのか愛情をもって、ひとつひとつ問題解決をしていくこと、それは全くのひとりでは出来ません。そこで、ひとりひとりが輪になっていくこと。これが自からを助けることになるのではないのでしょうか。

難病団体連合会はそうした病める者同志が輪になって新たな生きがいを求めている仲間たちの会です。権利という言葉はあまり好きではありませんが、医療がまだ発達してない頃にダメを宣告された患者が立ち上って、研究を続ける医者たちと共に「生きる権利」「学ぶ権利」を国や県に呼びかけています。お互いの病気を認め理解しあって、自分だけではないと認識をもって精神的な救いを自分たちのしあわせを希望をもって強く生きぬこうというのが連合会の目的ですが運営がなかなか難かしく特に資金集めにいつも頭を悩やましているのが現状です。不用の衣類を集めてパザールをしようか、場所はどこにしようか、心の中でいろいろあたためています。忙がしいからといって決して放棄した訳ではないのです。なんとかどこおりに行きたいと常々願っている次第です。柄ばかり大きいのですが「うどの大木」もいつかは役立つだろうと奉仕精神だけは大切にしています。どうぞみな様も、

病氣に負けず頑張って生きて下さい。生きるということに希望をもちましょう。

(名大ケースワーカー大島先生のお話の一部をまとめさせていたいただきました。)

☆少々遅い総会となってしまうが開かないよりましと極くうちわだけの会をと考え実行しました。先生方のご協力深く感謝しております。お忙がしい中ほんとうにありがとうございました。出席者は次の通りです。

柴田澄子(ご主人)、佐藤里子、石川幸子、村上フサ子、吉田綾子、鈴木かつ子、伊藤スエ、兵藤千代子、中神すみゑ、佐藤昌代、高木くに、小島伊佐子、小酒栄次 (順不同)

以上



(一)「患者の夫より一言」

友の会の運営啓発活動されて居られる各委員に厚く御礼申上げます。私の妻は急性増悪と寛解のくり返して九年間闘病を続けています。発病当時、幼稚園児だった長女は高校入試に頑張る年頃になりました。病気の内容が私なりに知る事が出来た時、目の前が真っ暗になり希望も無くした事がありました。主治医は家族の理解が大切だ、暖く見守る様にと口ぐせの様に云われるが、仕事に疲れ我が家に帰る時、雨戸がしまり、小窓より明るい灯が洩れているとホットするのです。今日も元気だったらしい、無事だった。良かった。だが明日はどうだろうか、まるでいつ爆発するかわからない爆弾をかゝえている様な気持ちで過した九年間、主婦としての勉めも、ろくに出来ぬ妻、近所づき合いも、親兄弟とのつき合いも、その愛する妻に対して、私の力づけの言葉は「馬鹿になれ、馬鹿になれ」なのです。

自分の気の向いた時にやれば良いのだから、疲れた時には、すぐ横になりなさい、と言いながらも、時には腹の立つ時もあるのです。「何をまたく／＼しているんだ」といった時の悲しそうな妻の顔、又後味の悪い私の気持ち、患者だけの病気ではない。家族も主人も苦しんでいるのだ。黙って見守っている主人、叫んでいる主人、それだけの差なのです。私は都市の近くに住んで、いろ

な情報を得る事が出来、又多くの友もいるが、地方の家族の方で私と同じ様に感じる友が大半ではないかと、思うのです。私は提

言したい「膠原」を通じて家族、御主人との交流が出来れば、いくらか気持が楽になるのではないかと、又友の会に対して仕事の合間にも手伝う事が出来るのではないかと。御主人、御家族の御意見お聞かせ下さい。

副会長 塩 地 一 成

(二)

私事四月初めに目の上が赤くなりすぐ病院に行きました。しかしどこも悪くないお日様のせいだと言われ六月迄三ヶ所病院を歩き七月二日に病院に入院しました。急に腰が上からなくなり、全体の力がなくなり七月二十日市立病院に入院しました。そこで初めて皮膚筋炎と診断されました。八月には歩くことも出来ず、今だに人の力をかりて起してもらい、食事をして寝てる生活です。少しづつ病気がよくなったのですが歩くことが出来ない為リハビリーの為現在（共愛会病院入院中）十二月十日から体の運動をしています。ステロイドの福作用で顔にニキビが出来丸い顔になりました今現在でも歩くこと起きることは出来ずのも少ししたんがからんで声が出なくなりです。良い所は手の指と心臓位です。目と目がくつきそうになって眠い感じになります。手は上からなくて一人で食事が出来なかったのが十一月には一人で食事が出来る様になりました。しかし頭が重くて痛いには本当に困っています。このままりハビリーを受けてはたして病気も良

くなり起きて歩けるかどうか心配です。付添さんを頼んで入院中の為経済的にも困り、主人も銀行より借入れをして付添費に当てています。

四十才の家庭の主婦、子供一人(女四年生)、主人は二十四時間勤務の国鉄職員、この為家庭の方も一日は、子供一人になる為夜間の事も有り本当に困っています。この病気の事で何か正しい療養や経験等おもちの方がいらっしゃいましたらお知らせ戴ければ幸と思います。

高橋 淳子 主婦

小学校四年のお子様を独人居させねばならない現状では精神的にも療養に専念と云う事も出来ない現実だと思えます。近ければ市の福祉事務所か、保健所へ連絡をとり、何か少しでも、道が広げる様お力になれたらと思えますが、唯、遠く心はせるばかり、お役にたてず申し訳ございません。どなたか、高橋さんのために、お近くでくわしく事情を伺って少しでもお力になってあげていただける会員の方、或いは家族の方はいらっしゃいませんか。

編集員一同、今、あのでこのてと話し合ってみました。答えが出ません。皆さんのお力を、かして下さいませ。

(三) お便りありがとうございました。お便りの内容が現在の私の心境にズバリ図星だったので、ドッキリでした。

本当は東京へ行って皆さんとお逢いすことを約束しながら、行けなかったのは、「恋の炎」を消したくなかったからなのです。どうかお許るして下さいませ。

でも、そのかいがあって、先日意中のその人からプロポーズされ信じられない嬉しさに、思わず彼の前で涙を流してしまいました。七月に結婚しますが、会の方は何んとか続けてゆきたいと思えます。彼はこういう事にとっても理解がある人なのです。とはいえ今迄と同じような活動が出来るかどうか、ちょっと心配ですが、できるだけ頑張りたいと思えます。

今、北海道は一年中で一番寒い時らしいのですが、私には、すこしも感じません。

会員の皆さんが、私みたいに幸せになれますよう心からお祈りいたします。

北海道 M

(どうも今年の冬は、西高東底の気圧配置が定まらず、一番寒い筈の一月末から二月始め東京は七、八度から十度、雪になるかと思えば雨、ガタ／＼の天気になりまわされていますが、Mさんの心の暖冬異変のせいでしょうか、おあつし事……………)

お便り遅くなって申し訳ありません。状態が悪くなったこともあって……本当に恐ろしい病気ですね。憎い!! 憎い!! でも頑張るぞ。絶対、打ち勝ってみせるぞ!! ネ、頑張りますよ。

全快は望みません。薬の量が減って軽快で良いのです。今デカドロン20錠と他の薬を服用しています。大小便は部屋でして、自分で後始末をしています。まだ関節が痛み、だるく歩くのが辛いのです。過ぎ去った事を思っても仕方無いことだけど、母が生きていたらなーと、何度涙した事か……それと病気の辛さ……苦しいですね。顔もふくらみ、腕毛もひどく、ひざがまだ思うように動かず、ヨチヨチ「あひる」みたいに歩いています。足がだるかったり、やけたり……でも日増しに良くなっているのです。うれしくて、この調子でいって減量になれば良いのですけど、元氣になつたら私は旅行好きだから、東京、イヤ、北海道迄も旅します。横浜にも、東京にも友達が、たくさんいます。早く〳〵行きたいです。そして本部の皆様ともお逢いして、支部をつくりたいと考えて居ります。私が支部長になっていいかしら? 頼りないですね。でも今はそんな希望を持って病院生活にたえています。

永島 つね子

永島さん、よく頑張って下さいました。もう一息です。あせらず療養をしてお目にかゝれる日を皆さんでお待ちして居ります。

投稿くださった素晴らしい斗病記録、誰でもその恐ろしさに忘すようにつとめ、世間にかくそうとする精神症状を、客観的に見つめ書いて下さった勇氣、編集員一同感謝いたして居ります。あの苦しみから脱し現在ある永島さんは素晴らしいと思います。社会の偏見をなくすためにも、貴重な原稿をよりよく生かすために少し考えさせていたゞく事にしましたので今回は、掲載いたしません。あしからず。

### 東京支部だより

膠原20号にて支部結成を御紹介申し上げましたが、支部を作らねばと話し合った発起人一同、寒さに弱く、それぞれ冬ごもり体勢となり、今だ何んの便りも出す事が出来ず、かけ声ばかりで中身の無い支部になって居り申し訳ありません。其の後幾人かの万々からお問合せがありました。そのつど暖かくなる迄待つて下さいと申し上げて参りましたが、暖かくなつたら、先づ一度懇親会をかねた、話し合いの会を開き、そのうえで役員は誰れに、東京支部をどんな支部にするべきか……等等、皆様と一諸に考えて行きたいと思ひ、その懇親会を、いつ頃どこでやるのがいゝだろうかともしか計画中です。

皆様、それ迄、いましばらくお待ち下さいませ。

## 本部ニュース

一、チャリティシヨウ報告十二月二十七日、東京宝塚劇場、(財)全国医療福祉協会主催、厚生省後援でチャリティシヨウとして

『雲の上の団五郎一座』が上演されました。出演者の中に愛知支部後援会会長の谷幹一さんも居られたので、愛知県百田支部長と連絡の上、本部より、佐藤副会長、倉田委員、松本委員が出席し、楽屋に訪ね、愛知支部の益々の後援をお願いすると共に、膠原病患者の理解と協力を合せてお願いしました。谷さんは「健康だから出来るのです。健康とは有難いものです。皆さんも頑張ってください。」との事でした。

### 二、運営委員会報告

一月九日、寺山事務局長宅にて新春の集いを兼ねて運営委員会を開きました。寒い中、都内、埼玉、茨城、神奈川より運営委員、関西支部より沢田支部長が日帰りで参加されました。北海道、愛知支部長も参加の予定でしたが、都合により事前に出席不能の連絡あり、残念でした。

(一) 「膠原」の発行は地方会員のためにもっと親身になって考える必要がある。地方会員の電話及び投稿、私信でもよい、積極的に取上げていくのが編集員の勉めではないか、との意見があり、今後その方向に進む事を確認しました。

(二) 関西支部、沢田支部長よりの報告によりますと、支部独自

で六ヶ月かゝって文集「闘」の第一号を発行しました。三十六頁のものが、聞病し従病する姿勢に対して会員ならずとも教えられる面が多くあると思われれます。本部でも文集を計画して居ますが取敢ず五十部購入し顧問の先生方、厚生省病院関係に送布しました。阪大の川津先生、肥田さん、菊地さん、運営委員のみなさん有難う御座居ました。

### (三) 年賀状有難う御座居ました。

会員の皆様方始め、多くの方々から励しの賀状頂きました。中に沖繩県の山城イネ子さんよりの只今三人の会員しかいないが、三人で協力し合って支部結成までもっていきたいとお便りがありました。知念さん、内間さんと共に無理なさらないで頑張ってください。

### 四 「福山先生有難う御座居ました」

日本チャリティ協会主催のチャリティシヨウが行なわれ、切符販売は福山先生に今回も、御協力頂いた事は、「膠原」二十号でお知らせした通りです。一月二十九日還付金の授与式が、厚生年金ホールで行なわれ、寺山事務局長、倉田委員が出席、一金五万九千円也を有難く受領しました。私達のために、御協力、御理解、頂ける先生に厚くお礼申し上げます。福山先生有難う御座居ました。今後共、私達友の会を見守って下さる。

このページは、

新入会員名簿のため

掲載しておりません。

寄附金御礼

順不同（一月三十一日現在）

|        |       |         |
|--------|-------|---------|
| 船岡満記子様 | （会員外） | 一、〇〇〇円  |
| 春名道子様  | （"）   | 一、〇〇〇円  |
| 中島布美様  | （"）   | 三、〇〇〇円  |
| 東京友の会  | （"）   | 一六、〇〇〇円 |
| 米山末男様  | （会員）  | 一〇、〇〇〇円 |
| 今野黎子様  | （"）   | 五、〇〇〇円  |
| 小池マツ子様 | （"）   | 一〇、〇〇〇円 |
| 田中順子様  | （"）   | 一〇、〇〇〇円 |

以下金額を省略させていただきます。

|        |      |  |
|--------|------|--|
| 杉山洋子様  | （会員） |  |
| 山口たづ子様 | （"）  |  |
| 広末力様   | （"）  |  |
| 森本喜一様  | （"）  |  |
| 北村有季子様 | （"）  |  |
| 佐藤昌代様  | （"）  |  |
| 大隅千鶴様  | （"）  |  |
| 太田てる様  | （"）  |  |
| 清水文代様  | （"）  |  |
| 吉岡和子様  | （"）  |  |
| 渡辺政吉様  | （"）  |  |

編集後記

二月も中葉、春の日の様に暖かい日があったかと思うと、急に冷え込んだり、すっかり天候に振りまわされながらも、編集員一同、北から南からの皆様の声に励けまされ、こうして集る事の出来る私達は倅せネ、あの県の人は一人よ、この県も二人、どうして苦しさと孤独にたえていらっしゃるのかしら、と胸つまらせる事も度々……

ラシックスを飲みながら、トイレに行くのもおしく汗ふきふきの倉田さん、充血した目をしよぼつかせながらの松本さん、一息入れてお茶でも飲んだらと気をつかってくれるお母さん役の寺山さん、でもみんな、無中であとでいゝわよと冷めたい返事……もっかそんなふうに皆んなで勉強して、よりよい「膠原」をつくる為に、努力中です。春迄、あと一歩皆様もくれぐれも御自愛の上次号を、お楽しみに、

五十年二月十日 佐藤

編集発行  
〒158 東京都世田谷区瀬田  
5-24-19  
電話 (700) 6083

膠原編集部

昭和四十六年八月七日第三種郵便物認可（毎月三回一の日発行）  
昭和五十年三月一日発行 SSKA 第一三九号

発行人 身体障害者団体 定期刊行物協会  
東京都世田谷区砧八十二番一三  
定価 八〇円